

嵐山昼話

「教育大の自然植生はなぜ残ったのか」

～近文の地下部に秘密あり～

主催 嵐山ビジターセンター

日時 5月5日(金) 13:30～14:30

会場 嵐山ビジターセンター

講師 伊藤大雪(北海道大学大学院環境科学院 修士1年)

北海道教育大学旭川校の構内では、旭川在来の自生植物を見ることができます。春はアズマイチゲやキバナノアマナが林床を華やかに染め、初夏にはクロユリやサイハイランが可憐な花を咲かせます。しかし旭川の平野部では、開発による環境の改変や侵略的な外来種の拡大にともなって、自然植生の多くが失われてきました。それではなぜ、教育大学の構内には、今なお自生植物が残ることができたのでしょうか。その理由を、旭川の地形と教育大学周辺の土地利用から考えてみたいと思います。



フクジュソウとキツネ



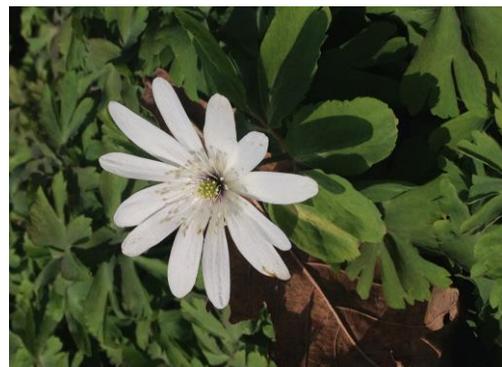
クロユリにハエ



旭教大構内の植生マップを作成した伊藤さん(左)、伊佐城さん



北海道新聞 2017,3,24



アズマイチゲ